小樽市立北陵中学校

校長　岡　本　清　豪

生徒数　　２３８名

学級数　１２(４)学級

職員数　　３５名

―「小樽の未来をつくる　北陵生の育成」を目指す学校経営　―

平成29年度の開校以来、生徒、保護者、地域に「自信と誇り」を抱かせるよう、「教職員のチーム力」「魅力ある授業」「保護者・地域の絆」を学校経営の３つの柱として進めている。

特に、令和２年度から文部科学省の「学園制加配活用事業」と道教委の「中１ギャップ問題未然防止事業」を連動させ、授業改善と不登校対策を重点に取り組み、大きな成果を上げている。

― 「学びに向かう力」を育む授業改善の推進 ―

ＩＣＴの効果的な活用や見通しと振り返りを重視した授業づくりを通して、生徒の学びに向かう力の育成に努めている。

特に、各教科の特性に応じた学習過程を示す「授業パッケージ」や「話し合いパッケージ」を定めるとともに、「ＮＩＥタイム」として「書く活動」と「読み取る活動」を週１回設定するなど、生徒の学びの深化に努め、質の高い授業づくりの取組として成果を上げている。

― 「未来につながる力を育てる」小中一貫教育の推進 ―

平成31年度に小樽市の指定を受けて以来、国や道の事業も活用しながら、小中一貫教育の実践を積み重ねている。

特に、理科及び外国語科の乗り入れ指導や、校区の小学校２校が混合で学級を編制し、中学校教員が指導する合同授業、中学校区の全教員による「教育課程部会」「学力向上部会」「生徒指導部会」に分かれた定例部会や合同研修会を実施し、その取組を広く普及するなど、成果を上げている。

― 保護者・地域とともにある信頼される学校を目指して ―

１人１台端末の活用は、小学校から継続して取り組んでいて、各授業での学習はもとよりコロナにより登校ができない生徒に対して学びを保障するなど、成果を上げていると感じています。また、授業の中に話合い活動が含まれ、小学校とも連携した取組となっていることで、生徒は話し合う習慣を身に付けることができ、コミニュケーションの力を育む実践が行われていると思います。

（保護者の声）